平成29年8月2日

東京都知事 小池 百合子 殿

海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟

会長　額賀　福志郎

**米海軍病院船USNS マーシー2018年の東京湾寄港についての申し入れ**

日本はEEZ（排他的経済水域）の面積447万㎢ で、世界第６位を誇る海洋国です。しかし、東日本大震災においては海からの災害対応、特に医療アプローチが極めて脆弱でした。そこで、自由民主党・公明党の議員の間で２０１４年３月２４日『海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟』を創立し、以下の項に沿って勉強してまいりました。

1. 首都直下型地震、南海、東南海トラフ地震等の大型災害の脅威に備え、海からのアプローチが不可欠と位置づけ検討しています。
2. 災害医療の未来を考えるためには、『移動能力を持つ』装備（ハード）と、それを機能させるシステム（ソフト）を一体的に運用する、海上アプローチの創造的最適解を目指して検討しています。
3. 船舶の視点だけでその在り方を決める従来思考を改め、災害医療に従事する人材を養成する災害医療研究病院（仮称）と、病院船のような移動能力を持つ装備と一体的に機能させるために必要な法制度の強化を含む、仕組みづくりを検討しています。

これらの調査研究の成果を更に高めるため、この度「パシフィック・パートナーシップ

２０１８」を主導する米海軍病院船USNS マーシーを、歴史上はじめて日本に紹介する機会を実現する方向となっています。戦後７２年、多くの国民は病院船の存在を知らない中、広く国民に「動く病院」機能を知ってもらうことは、海洋国日本の災害医療の未来を考える上で、大きなターニングポイントになると思います。つきましては、東京都と国が連携して、東京オリンピック・パラリンピック前にあらゆる災害を想定して、万全の態勢を準備していくことは、世界各国の関係者共通の思いであることから、次の各項について特段のご配慮をお願い申し上げます。

**記**

1. マーシー東京湾寄港イベントに小池東京都知事のご出席をお願いします。あわせて、

同行事に東京都のご参画もお願いします。

（東京都議会議員のご出席及び周辺自治体首長へご案内・ご出席もお願いします）

1. マーシー寄港年を病院船保有のターニングポイントとする当議連の趣意にご賛同賜り、海からのアプローチによる災害対策について、東京都と国、関係機関が連携した、病院と病院船の一体的体制や災害医療人材養成プロジェクト等の実現に向けた方策をご検討いただき、ご協力をお願いします。

以上